

光市医師会報

昭和63年 5月号

No. 187



皐月に舞う

光市医師会

昭和63年度 光市医師会定時総会

昭和63年4月21日(木) 午後4時～

光オリエントホテル

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 開会のことば | (承認事項) |
| 2. 会長挨拶 | 第5号議案 光市医師会出張旅費 |
| 3. 議長挨拶 | 規則改訂に関する件 |
| 4. 議 題 | (決議事項) |
| 第1号議案 昭和62年度事業報告 | 第6号議案 昭和63年度事業計画 |
| (承認事項) | (案) (決議事項) |
| 第2号議案 昭和62年度会計報告 | 第7号議案 昭和63年度収支予算 |
| 附、光市医師会史編纂特 | (案) (決議事項) |
| 別会計報告(承認事項) | 第8号議案 総会決議権限の委任 |
| 第3号議案 昭和62年度納税組合 | (決議事項) |
| 収支報告(承認事項) | 第9号議案 光市医師会裁定委員 |
| 第4号議案 昭和62年度労働保険 | 選出の件 (決議事項) |
| 事務組合会計報告 | |
| | 5. 閉会のことば |

(議事経過)

審議にさきだち4月15日に逝去された大野先生の御冥福を祈り黙祷。

廣田議長：出席者25名、委任状提出者17名、計42名で全会員数47名の過半数に達しており総会成立を宣言。

次いで議事録署名委員に高橋建次会員と前田昇一会員を指名し議事に入る。

- 第1号議案 福本副会長報告
- 第2号議案 藤原理事報告
- 第3号議案 渡辺監事報告
- 第4号議案 近藤理事報告

田中監事：第2号議案より第4号議案迄の会計を監査し公正妥当であることを報告。

廣田議長：第1号議案より第4号議案迄について質疑を求めたが、全員賛成の挙手にて原案通り承認される。

第5号議案 竹中会長説明

廣田議長：第5号議案について質疑を求め

る。
田中監事：出張旅費をまとめて支給する方が有利ではないか。



渡辺監事：健保審査委員出張の場合は支給するのか。

竹中会長：前者は理事会で検討する。後者は対象外である。

廣田議長：再度賛否を求め、全員賛成の挙手にて承認される。

第6号議案 竹中会長

第7号議案 藤原理事

第8号議案 竹中会長

第9号議案 竹中会長

大野先生の死去により欠員となった裁定委員に中村琢美会員を推薦。

廣田議長：第6号議案より第9号議案までの質疑を求める。

渡辺監事：(1)理事の会務分担の税制担当で納税組合もやってもらえるか。(2)予算でコピー機が20万円で購入できるのか。(3)5月3連休の当番医の倍額は前後に日曜日が入った場合は。(4)年末年始3連休の倍額支給は国から助成があるのか。

米今会員：(5)事務職員の出張交通費は出るのか。

中村国雄会員：(6)昭和63年度の事業税はどうなっているのか。

田中監事：(7)5月の3連休に当番医に倍

額出すのなら2連休にも出しては。祝日の場合割増しをつけられないか。

以上について、竹中会長の回答。

竹中会長：(1)納税組合は従来通り渡辺会員にやって欲しい。(2)コピー機は約40万円するので昭和62年度と昭和63年度で20万円ずつ支出する。(3)3連休に日曜日が前後しても、5月3日4日5日に固定したい。(4)国からの助成はないが医師会内で操作する。(5)事務職員の交通費としては支給していない。(6)昭和63年度は逃られる模様である。(7)予算をみて検討してみたいが早急には無理。

その他質疑なく全員賛成の挙手にて承認された。

以上の如く全議案の審議終了。

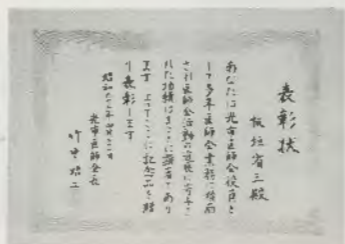
午後5時30分。(議事録より抜粋)

総会に引き続き

連絡事項

- (1) 兼清昭久先生入会の件
 - (2) 大城美枝子先生入会の件
 - (3) 山口県内科医会の報告
 - (4) 大島医学会の件
 - (5) 麻疹ワクチン仕入先の件
- 永年役員

板垣前理事に、永年にわたり光市医師会への貢献に対して感謝状・記念品の贈呈がおこなわれた。



懇親会

午後6時より同ホテルにおいて、河村光市助役他8名をお招きして開催。梅田理事の司会で始まり和やかな宴となる。



昭和63年度

光市医師会事業計画(案)

光市医師会長 竹中昭二

昭和63年度の事業計画をたてるにあたって、医師会業務がマンネリ化しない様にする為、各理事の担当変更を計画致しました。各理事に持ち前の手腕を発揮して頂いて斯様な医師会運営が出来る事を期待し、医師会活動の活性化を図る事が目的であります。

(各理事の担当事項は別紙の通り)

本年4月、保険診療費の改定が行なわれましたが、薬価基準の引き下げ、保険審査

の強化等、医療費の抑制策がきびしく、医療よりも財政が優先される行政処置がとられ、医療をとりまく環境は極めてきびしいものがあります。この様な状態におきましても急速に進歩する医学、医術を常に研鑽し、医の倫理に徹し、地域住民の医療と健康を確保し、社会福祉に貢献する事が医師会活動の根幹と考えます。この様な観点に立ち、また光市医師会定款第3条に明示してあります本会の目的を達成する為、昭和63年度事業計画を次ぎの様に立案致しました。勿論当計画の実践につきましては会員各位の意見を尊重し、民主的、且つ効率的な運営を行い、会員の和を図り、研修、親睦等の実をあげ医師会運営をより一層、円滑化したいと考えております。

1. 月例会について

従来実施して来ました通り毎月1回定期的に実施する計画です。情報伝達或いは協議の場としてのみならず、親睦の場としても多いに活用して頂きたいと考えております。その為夕食会等を加味した会合を時には持ちたいものと計画を致しております。尚、次ぎに述べます生涯教育に関連して、研修の場にもなるよう計画し、多くの機能が発揮され充実した月例会になるようにしたいと考えております。何れに致しましても、出席する事が、親睦、研修等いろいろの事柄につながりますので、積極的な参加をお願い申し上げます。

2. 生涯教育関係について

日本医師会は昭和62年度より生涯教育の制度化に踏み切り、先般は研修時間等の書

類提出等に御協力を頂きました。山口県医師会としては、教育研修講座等に力を入れた計画を立案される事と思いますが、当医師会としても昨年同様に下松医師会と協議して隔月に学術研修会を開催する予定をたてております。新しい医療技術の修得或るいは医療知識の吸収はプライマリーケアの充実、地域医療の質の向上にも貢献出来、又医事紛争の防止にも役立つものとおもいますので研修会開催或るいは研修会に関する情報提供には意を注ぐ予定であります。

又、山口県医師会関係の研修会、学会へ参加し易い様にする事と会員間の親睦を深める為に、本年度も引き続き研修バスを運行する事にしております。

尚、生涯教育との直接のかかわりはありませんが、光市医師会の学術行事の一つとして光市民との触れ合いの場をつくり、光市民の医学的な啓蒙に資する為、医学講演会を計画しております。

3. 保険関係について

健康保険と医業経営は密接な関係にあります。この度健康保険点数改定という事で名目上は値上げの型をとっておりますが、薬価基準の引き下げ等で、マイナス改定ではないかと思われる状況であります。加えて保険監査の強化等で医療の締めつけが厳しくなっており医療経営の困難さは持続するものと考えられます。従って保険診療の向上、ミスによる点数減少の防止等の為、保険情報伝達の緊密化、或るいは保険診療講習会を持たなければならないと考えております。

又、本年は、光市医師会の受け持ちで、

周南三市医師会と、周南地区健康保険組合との協議会が予定されております。会員各位の活発な御意見をお願いする次第であります。

4. 医事紛争・麻薬・産業医関係について

医事紛争は民主主義の発展により、人権尊重の名目のもとに、損害に対する主張、物質的補償が益々エスカレートするものと予想され医療事故は医療の聖職の域を脱し技術に対する契約違反と理解される様になれば、その件数は増大し紛争の範囲も医師の理解をこえる迄に至るであろう。従って事故防止の為の研修、教育を充分にし医師同志の相互扶助の精神を高め、これに対処して行かなければならない。

麻薬は治療効果の非常に秀れた薬ではあるが、その習慣性、中毒性は、又人格をも破壊する副作用の強い薬である。従って、この取り扱いの不備は刑事責任をも問われるので充分に取り扱いの研修と慎重さが大切である。

産業保険は法的に産業医を必要とする事業所の増加と共に我々一般開業医に迄その役が廻り大変困惑している訳であり当然産業医の専門医が将来これに当たるべきで、その間のつなぎとして契約職務遂行を行う訳で専門外の医師と言えども、その研修と産業医の理解を深めるべきである。

5. 地域医療関係について

地域医療及び計画は、将来の医師の生存に関する問題で軽々しく近視眼的官僚行政指導にまどわされる事なく、21世紀を見つめながら光市医師会員の衆智を集め慎重に

検討対処すできものである。

救急医療は、1次2次の医療が対象となり救命救急は、初段階的対処の研修が必要であり各種医療機関の相互協力的活動が特に必要であり、本来行政的問題であることを医師会が肩代りさせられている感が深い。

当番医編成も内科系、外科系と単純に別ける事に問題が有るが光市の医師数を勘案し、当分現状で協力を御願ひしたい。

6. 学校保健関係について

(1)児童生徒の心臓検診は昨年と同様A方式にて小学1年、中学1年全員に調査票と心電図検査を6月13日より7日間実施します。従って内科的健診に於ては、心音聴診に、貧血・脊柱弯曲症にも気を付けて頂きたい。心臓検診の結果は纏まり次第報告しますので、要管理者の取扱いについて十分な指導をお願いしたい。

(2)今年度より生徒数の多い浅江小、室積小、浅江中、島田中の校医が二人となりました。二人の先生同志充分に協力し合ってお願ひします。

(3)光市学校保健会の会長を医師会が担当しておりますので、その方の御協力を御願ひ致します。又各学校保健会での講演やアドバイス等よろしく御願ひしたい。

(4)児童生徒に特に重要な項目について今年度も医学講演会を開催したいと思っております。適切な演題がありましたら御教示下さい。

7. 住民保健関係について

老人保健法による検診業務については、医療行政機関と連絡をとり乍ら遂行して参

っているところであります。本年度は従来の成人病検診、子宮癌検診に加えて、乳癌検診を実施する予定であります。乳癌検診は初めての試みでありますので、試行錯誤する事も多い事と思ひますが、御協力を御願ひします。

又、各種予防接種に関する出務割当表も過日お配り致しましたが、会員各位の御協力により地域住民の健康保持に万全を期したいものと思っております。

8. 会員福祉について

小さな医師会なのだから、まず会員同志が仲良くなくてはいけない。仲良くなる為の色々な行事を考えたいと思っている。予算をたっぷりとってやれるのならよいのだが、当然限度があるので、多分皆様に御迷惑をおかけすることと思ひますが、よろしく御願ひ致します。

9. 広報関係について

広報活動は光市医師会報の編集発行が主な仕事になると思ひます。その会報は会員各位の御協力・担当理事の御努力で素晴らしいものに育って参りました。さて、今年度の会報も、先任者の御苦勞の結集の今迄の路線を引き継いでゆこうと思っております。医師会関係行事及び行事の寄稿、会員の動向等の公的なものと、会員広場としての自由投稿の私的なものが二つの柱になるかと思ひます。硬いニュース、軟らかい読み物とバラティエーに富んだ紙面にしたいと考えるのですが、企画が非常に困難である事と、会報が当医師会の歴史誌として残すと性格もあり、医師会関係行事を中心

に編集することになると思っております。

会員各位のなお一層の積極的な御参加をお願い申し上げます。

10. 病診連携について

当医師会に於きましては、勤務医側より生涯教育担当理事として医師会業務にも参画して頂いており、病診間の友誼的交流はスムーズに行われているものと確信しております。

患者紹介等実地診療上の問題、或るいは学術研修を通じての新知識の吸収等に関しても現在のスムーズな関係がよりよく保たれるようお互いの意思の疎通を図ってゆかなければならないと考えております。

以上、昭和63年度光市医師会事業計画の概要を述べましたが、その他、税務に対する問題、労働基準法改正による法定労働時間短縮に関して勤務員に対する労務管理の問題等、時期に応じて研修、講習会等を持って医療基盤の安定に役立たせたいと思っております。

尚、前年度来懸案となっておりました光市医師会定款及び諸規則の改定、整備等も今年度の課題として取り組む心算であります。

何れに致しましても、会員各位の御協力がなければ、この事業計画も絵に画いた餅に終わってしまいます。積極的な医師会参加と、活発な御意見をお願い申し上げます。

医師会月間行事

昭和63年4月度理事会

4月5日 (火) 午後7時30分～

光市医師会館

議 題 (報告・協議事項)

(1) 総会に関する件 (竹中会長)

(イ) 総会の開催日時、場所

(ロ) 招待名簿の確認

(ハ) 昭和62年度事業報告に関する件

(ニ) 昭和62年度決算報告に関する件

(ホ) 昭和63年度事業計画に関する件

(ヘ) 昭和63年度予算(案)に関する件

(ト) 旅費規定の変更に関する件

(チ) 永年役員の表彰の件

(リ) その他

(2) その他

(イ) コピー購入の件

(ロ) 救急医療再編成の件

昭和63年4月臨時理事会

4月12日 (火) 午後7時30分～

光市医師会館

議 題 (協議事項)

(1) 総会に関する事項 (竹中会長)

(2) その他

(イ) 休日診療当直者変更の件

4月16日 (土) 午後7時～

故大野先生宅

大野先生葬儀に関する件

大野宗二先生死去



弔 辞

昭和63年4月15日午後
2時35分に御逝去され
ました。
謹んで哀悼の意を表し
ます。

山口県医師会長 田 村 武 男

春の訪れに背くかのように大野先生の突然の訃報に接し、今日ここにお別れの言葉を申し上げねばならないことは誠に痛恨の極みでございます。

先生は昭和十二年九州医学専門学校を卒業され、戦前は軍医として活躍戦後は勤務医となられ、昭和二十八年以後八幡製鉄光製鉄診療所長として永年産業衛生活動を通じて勤労者の健康増進に寄与して来られました。

昭和四十四年ご当地に開業、その卓越した医療技術と優れた見識は広く地域住民から深い信頼を集められ、今日まで一貫して地域医療、住民保健に尽力して来られました。またその間、先生の指導力実行力は深い先見性と相俟って医師会員の期待を受け

られ、理事、副会長、会長として実に二十余年の長きにわたって会務を主導して来られました。また県医師会においては永く代議員を務めていただき、ご他界直前まで裁定委員として御卓見を県医師会に反映していただきました。さらに学校医、産業医をはじめ社会福祉事業に参画される等、先生のご功績は枚挙にいとまがなく、先年これらのご功績に対し県知事選奨の栄に輝かれましたことも当然のことと存じます。

医療をとりまく環境が殊のほか厳しくなっている今日、先生を失うことは私共会員にとりまして誠に惜しく残念でなりません。先生の御霊前に今日まで御指導賜りましたことを改めてお礼を申し上げますとともに、私共医師会員は先生の御遺志を継いで

地域の皆さんの医療と保健・福祉の推進に努力をいたすことをお誓いするものでございます。

突然先生が逝かれて御遺族御親族の皆様方の御悲嘆は察しても余りあるものがございますが、先生の尊い思い出を胸に、どう

ぞ御平安にお過ごし下さいますようお願い申し上げます。

大野先生どうぞ安らかにお眠り下さい。心より先生の御冥福をお祈り申し上げお別れの言葉といたします。

昭和六十三年四月十七日

弔 辞

光 医 師 会 長 竹 中 昭 二

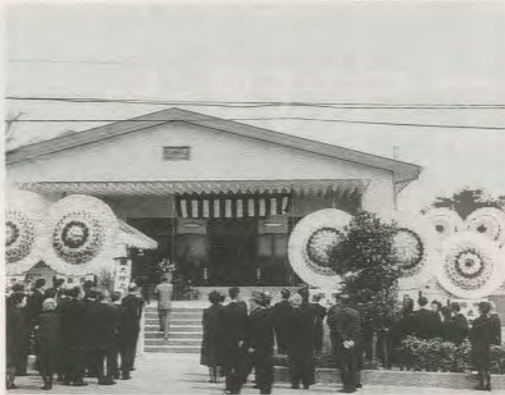
本日、ここに故大野宗二先生の告別式が執り行われますに当り、謹んで御霊前に光市医師会を代表して心より哀悼の意を捧げます。病床に臥しておられることは承知しておりましたが、いずれ御寛解され私達の前に元気なお姿を見せてくださるとばかり信じておりましたのに突然の訃報に接し会員一同只々深い悲しみを覚えるのみであります。生者必滅会者常離は世の常とは申しませんが、平素御壮健な先生が病魔にたおられ手厚い看護の甲斐もむなしくお亡くなりになりました事は真に痛恨の極みでありまして御遺族の方々のお嘆きはいかばかりかと、御推察申し上げます。

顧りみますと、先生には大正三年生を受けられ、昭和十二年九州医学専門学校を御卒業後八幡製鉄病院内科に勤務、以後昭和十三年より軍医として各地に勤務された様に承っております。その後昭和二十八年には九州大学に於て学位を受領し、新日鉄光製鉄所診療所長として来光され、昭和四十四年当地に内科を御開業になり以後十九年の長きにわたり地域医療の為に貢献されました。この様に地域医療に献心的に従事される傍ら光市医師会に於ては理事、副会長、

会長等の要職を歴任されると共に山口県医師会に於ても県代議員を五年に亘り努められ現在も県医師会裁定委員として御活躍中でありました。

又、学校医としても昭和四十四年以後浅江小学校校医として次代をになう児童の健康管理に盡力され健康優良全国優秀校受賞に貢献されました。産業医としても昭和二十八年光製鉄所診療所長として就任以来産業保健に意を盡され数々の受賞の栄に輝いておられます。他面医療以外にも光ライオンズクラブの会員として、社会奉仕活動に努力される等多方面の御活躍により昭和六十一年山口県選奨を受けられました事は我々の記憶に新しい所であります。

光市医師会に於ける先生の御業績も真に目ざましいものがあります。光市医師会報の発刊についてはその先鞭をつけられ、その発行回数も百八十六回に及んでおります。又、特筆大書されるべきは光市医師会史の編纂で、新生医師会結成後四十年に及ぶ医師会史を三年間を要して、資料も殆んど散逸しているにもかかわらず編纂された事は真に困難であったろうと頭の下る思いであります。



先生は又スポーツマンで医師会野球部のピッチャーとして活躍され、ゴルフ部会の創設時には責任者として縁友会の創立に盡力され非常に楽しい思い出も残されました。

医療についても自分に対して真に厳格で、御遺族の方のお話によりますと入院の前日迄自分の苦痛を堪え忍んで患者さんの診療にあたられたそうで、我々の範とするところであります。

本年一月に偶々先生のお宅を訪れました時竹中君、僕の胸部に一寸かげがあるので煙草をやめたよ、と話されたいした事ではない様な口振りでありました。三月中旬に入院された事を聞きましたのでお見舞に参りました時も、すぐに退院するんだから他の会員には極秘にしてくれと申されましたので、二・三の役員と相談して他の会員には極秘にして参りました。私も本当に先生がすぐ退院されることをのぞんでおりましたが、一昨日突然の訃報を受け、只々愕然とするのみでありました。

先生は患者さんのみならず町内会の御面倒もよくみられるようで、多くの方々が悲しみに暮れておられる事と存じます。

この様に全人格的に尊敬する先生を失い

ました事は返す返すも残念で、我々は親を失った子供の様な心境であります。しかしながら悲しんでばかりいられません。私達光市医師会員は先生の御遺志を受けつぎ今後も医の倫理をわきまえ、生涯教育、地域医療、社会福祉に貢献することをお誓い致します。

大野先生、どうか安らかにお眠り下さい。最後に御遺族皆様方に衷心よりお悔みを申し上げまして弔辞と致します。

昭和六十三年四月十七日

故大野先生を偲んで

田尻常太郎

散り初めた満開の桜花に誘われる様にして逝かれました。

昭和二十八年新日鉄診療所長として赴任された時から何となく親しみを感じて居ました。と言うのは私自身今の北九州市八幡西区で少年期を過し、大正十年頃日本国中不況の波に洗われていた頃でも旧八幡製鉄所の退場門からは帰途につく工員で物凄く、列が終るまで三十分近くもかかったりしていたのを思い出したりしたからです。

先生は産業医としても多大の業績を残され、又光市医師会も会社をバックに大変お世話になった事は皆様御承知の通りであります。光市医師会長になられて間もない頃御苦労様ですが光市医師会誌を作って見ては如何ですかと言った事がありました。資料集めが大変で難しい問題だと言う事でしたが、何年か過ぎた頃決断されたのでしよう。諸先生方の協力を得る事が出来て完成の目度就いたから終戦後の光市医師会の話等聞きたいと言う事で金久別館に席を催し懇談をした事も有りました。その後事は順調に運び山口市での県医学の帰路、佐波山の墜道を過ぎた頃バスの中で医師会誌も愈々完成の運びになったから何か一言書けと言う事も有りました。これ程の仕事は大野先生無くては不可能な事では無かったかと思われます。その他五ケ年に亘っての光市医師会長としての多大の業績は、今更申し上げるまでもない事です。

小生の縁者で岡崎工業KKの副社長としていた者が、先生が八幡製鉄病院に在任中大変お世話になっていたとかで、光支社に出張の折光駅前松屋旅館で小生も交えて夕食を御一緒した事があった折、何処かの合合であとだったらしくそこはかと無く脂粉の香りがしていた事を思い出して我が意を得た様な気分になった事も有りました。又、会長時代県医師会主催の山口市での忘年会に出席する時奥様を同伴して帰路は奥様の運運転だったとか。小生等ライオンズクラブでの会長忘年会に湯田まで行った事はあったが、県医師会の方には顔を出した事も無く大分出来が違ふ様な気がします。

最後に告別式は好天に恵まれた事もあつ

て盛大に行われました。特に御長男博君の謝辞は誠にお美事で、終った瞬間思わず目頭が熱くなったのは小生だけでは無かっただろうと思われました。今となつては唯々御冥福をお祈りするのみです。

昭和六十三年四月二十一日

追記

一ヶ月近くも入院されて居られたのにその事を知らず一度も御見舞に行かず、知らなかった事とは言い乍ら誠に申し訳ない事でした。風の便りにでも知る事が出来たらと御家族の方に申し訳なく心を痛めて居ります。

大野宗二先生の思い出

福本寿雄

私が大野先生と付き合い始めたのは、多分昭和37年頃、光医師会で軟式野球やソフトボールのチームを編成し、歯科医師会、市議員チーム等と対抗試合をやり、又県医師会での試合を次々にやっていた頃である。当時としては強力のチームであり、県医師会でも2回優勝、2回準優勝した程である。その頃のチームのメンバーは森先生を監督として、高島、大野、上野、亀田、河村、広田、竹中、富恵、中村(隊)、河内山(備)、三浦(製鉄)の各先生等13名位で結成していた。大野先生はゴルフが上手でしたので、野球のバットスイングもゴルフのスイングのようだと言ひ合っていた。そのメンバーも今では5人も欠けてしまった。

昭和41年5月にゴルフ同好会が光緑友会として結成された。当時ゴルフは殆んどが始めてなので、大野先生を中心にハンディ



光市医師会 最強メンバー

森田河富竹広亀
尻村恵中田田
(写真左より) 中上大高三富尊
村(野)野畠浦恵父

一を作ってもらい、月に1回当時出来たばかりの光C.C.でコンペを盛んにやったものだ。下松や他の医師会と対抗戦をやっても大てい光が優勝していた。

大野先生の光市医師会での大きな御活躍は、昭和46年に副会長になられてからで、林会長を助けての縁の下の力持的で表には絶対出ず、裏で几帳面に議事録を整理され医師会報を手書きで発行する等、並々ならぬ努力をされたことである。昭和47年8月から医師会報が印刷発行するようになってから54年4月伊藤先生にバトンタッチする迄7年間、第1号から第95号(印刷79号)迄お1人で原稿集めから編集、校正迄全部やられたことには頭が下る思いである。原稿が集まらない時は、いろいろの本を読み興味ある文献や光市の大気汚染の状況等資料を集めては掲載されていた。

私が特に大野先生にお世話になったのは私が昭和53年4月に副会長になってから、1年もしない内に林会長に亡くなられ、新

米の副会長として今後どうしたら良いのが戸惑った時であった。その時大野先生のお蔭であらゆる面でバックアップして下さり、ほんとうに助かったことは今だに忘れ得ない。その後大野先生が医師会長になられ、副会長の私を3年間色々と指導して下さいました。しかし、時には酷く叱られ恐い先生だなあと感じたことも屡々あった。しかしそれは凡て大野先生の几帳面のなすところであり、好い加減のところのある私を叱咤激励されたことと思っている。

几帳面さを強く感じたことは、会長を辞任されてから、医師会内で「光市医師会史」を作ろうという話もちり、編纂委員長には大野先生しかないということになった。編纂委員会も12回にも亘り開催し、我々もある程度昔の資料を探したが、なかなか充分な資料が集まらず、こんなことで出来るのだろうかと不安になった。しかし編纂の後半は大野先生一人で山口に行って資料を集めたり、編纂専門の事務員を雇って資料の整理やまとめをやらせ、編集、印刷、校正まで一人でやられたのである。その熱心さ、努力には全員が舌を巻いた次第である。

この医師会史が大野先生にとって最後の大事な仕事になったことになる。

この様なことばかり書くと、大野先生はまるで石部金吉のように見えるが、実はそうではなく、医師会の運動会の仮装行列では、必ずとんでもない程一人で美人(?)に変装してドンチャン騒ぎ風の踊りを披露していた。又宴会等で一杯飲んだりすると、とっておきの芸「裸おどり」(襦を立っての入浴シーン)をみせてくれた。そのような時の大野先生の顔は、全く昔の学生気分

がぬけきれない先生であった。そして文学青年のような純情さの一面があったように思う。だから大野先生と言うと「74才の哲学者的の青年」と言う感じがしてならないお人であった。



大野先生華麗な舞い

遙かなる人

河内山 清

みんなが先生を敬慕してやまないのは、数々の輝かしい御功績は勿論であるが、それにもましてその御人柄であったろうと思われる。あおぞらの広さ透明、春風の暖かさ親しみ、海原の包容力寛大、大地の恵みはぐくみ、そして善意くっつくなさ気兼ねなさ、ユーモア二枚の団扇の芸術内に秘められた正義熱血漢。これ等は泉の如く静かに豊かに湧き出で溢れ出でてすべての人の心を潤すものであった。

ゴルフのエチケットは先生を縛り得たが、謡曲のルールは先生を制御することは出来なかった。即ち天衣無縫通達自在なること風の空中を行くに障礙なきが如くであった。

その声は先生の飄飄たる御性格と溶け合

って得も言われぬ曲の面白さ、なごやかな芸風をかもし出すのであった。「あいつ（謡の先生のこと）わしが謡いはじめると必ず居眠りしやがる」とくやしがられたものであるが、大野節の催眠術にかかったらどんな大先生でもいちころである。会を前にして出演をお願いすると「いやー私はどうも……」と頭のとっぺんへ手をのせられるが、二度三度とお願いすると何時も必ず引き受けて下さってレコード相手に稽古に勵まれるのであった。先生はワキ、ツレ等ではなくシテの役でなければどうしても似合わないタイプの謡であった。不思議でならないがこれもやはり先生の徳と器量によるものであろう。先生が会で謡われる時は何時も必ず奥様が後ろの方ではあるが先生の真正面に坐られてじっと見守り聴き入って居られたのが誠に印象的であった。先生も亦奥様一人に聴かせたくて謡われ、そして聴いて貰えるのが一番嬉しかったのではなからうかと拝察するのである。何処へ行かれるにも二人御一緒であった。奥様のお悲しみ察するに余りあり言葉もない次第である。先生の御遺影の前に花菖蒲と、最も好まれた「雲林院」の謡本とを供えたいと思うものである。

一次会二次会三師会医師会史

イエスのありて否のなかりし

おもねらず驕らず飾らずへだてせず

おのずから世に慕はれし人

果しなき道をたどりて今日も行く

わずか残りし生命なるかも

大野先生の思い出

とみえさとし

私が光へ来た昭和35年よりの交際だから随分長い。思い出として挙げるならば、先づスポーツであろう。スポーツは万能選手で、ゴルフ、野球、バレー、ボーリング、等々、なんでもやって居られ、私達と一回り以上も年上なのに、誘えば何処にでも出て来られた。その昔、県大会が盛んに行なわれて居た野球に熱中して、山口、防府、徳山、と案内があれば、道具持参で良く出掛けた。少しは恰好の良い試合をやろうと言う事で、練習を武田のグラウンドで行った事がある。監督の大野先生は、尻に手拭いをぶらさげて、運動靴を履き出て来られて、亀田君とバッテリーを組み、ピッチャーをやって居られた。スローボールにカーブを混ぜて投げて居られた。案外、スローボールは打てず、試合になると、他処の医師会の連中に「お年は幾つですか」と問はれたものである。徳山での野球の試合を出光石油の埋立地で行ったのを最後に、翌年、県大会のソフトで優勝。湯野で祝勝会を行った事は忘れ得ぬ思い出であろう。HIKARIのマークの入ったユニホームを着て、最初で最後の優勝であった。運動会に使っている優勝旗はその時のではなかったろうか。ぼつぼつ、趨勢がゴルフに傾いて、出場チームが少なくなかった所為かも知れない。何れにしても先生との楽しい思い出の一つである。医師会の運動会にも卒先して出て来られ、バレー、ソフトと、若い者と一緒に汗を流され、医師会を一つにまとめるの



別 離

に力を貸して頂いた。

夜のお相手も、良く交際って頂いた。胃を切ってから、飲む量が少なくなったもののカンバン迄残る事が再三であった。此処数年、カラオケを唄って居られたが、唄う歌は、「青い山脈」と「アカシアの雨が止む時」の二曲であった。誰かが唄おうとすれば、「それは、俺の歌」と言って唄って居られ、戦後に流行った「青い山脈」を皆で合唱、学生時代に選った様に唄った先生の姿が懐しい。又「アカシアの雨」は、先生の数少ないレパートリーの一つであろう。

アカシアの雨にうたれて、

このまま死んでしまいたい、

夜が明ける、日がのぼる、

朝の光りの、 その中で、

冷たくなった、 私を見つけて、

あの人は、

涙を流して、 くれるでしょうか。

一章を全部記したのは、低い声で唄われる先生の、感情を込めた唄い振りは、すばらしいロマンス、いや、悲しい思い出でもあったのではなかったろうか?。「ミサ」でカラオケを唄って、先生を送り出した後、

竹中君と度々話合ったものである。

夜の交際いばかりでなく、先生は良く勉強されて居られた。医学書は勿論、他に色々な物を読んで居られた。県医学会で、経済学者の伊藤教授の特別講演も先生の発案であったし、お目に掛った事も無い教授に電話で交渉され、お宅まで電話で追かけて講演を引き受けて頂いた様に伺っている。講演を聞きに来られた広島県医師会会長が「広島県医学会の演者として予定して居た方を、良く引張って来られたですね」と感心して居られた事を思い出す。中央の医学会へも度々出られて「こんな話を聞いたぞ」と、プログラムにメモを挟んで貸して頂いたのも懐しい思い出である。少しは女房孝行をせねばと、奥様同伴での学会への出席を聞いて、吾が家の女房殿は「いいわね!!」と羨しがっていたのも又、思い出である。

先生には、迷惑の掛け放しの様な気がする。医師会のもめ事を持って行っては相談に乗って貰った。忙しい先生に申訳けない事をしたと、悔んでいる次第である。

入院された先生を見舞いに行った時、呼吸困難で起座呼吸をされ乍ら、「お前の喘息の発作も辛かっただろう」と私の病気を心配されて居られた。先生の病名を知って居た私は、先生のお顔を、まともに見られず、「その中、薬が効いて楽になりますよ」と言って慌てて部屋を飛び出した。でも後刻、灯の火が消える様な御臨終であった由、苦しまれなかったのがせめての幸せであったのではなかったろうか。病気の苦しみのさ中、他人の病気の心配をして下さった先生の優しさを改めて噛みしめている。

会報委員の命令で、大野先生の思い出を

浮んでくるままに記したが、私にとって、掛け替えのない先輩を失ったのが実感である。

大野先生、 さようなら。

~~~~~

## ＝ 編集後記 ＝

今月号は光市医師会報の生みの親大野先生の悲しい特集になりました。レイアウトをしていて気持ちが沈みがちになります。

過日先生をお見舞い申し上げた時枕元で「私が今年度より会報の担当になりました。早くお元気になられ4月号が出ましたら御批評お願いします」と申し上げましたところ、病状悪化のためか苦しそうな息の下で「ウンウン」とうなずいておられました。しかし二度と御批評を仰ぐ機会がなくなって仕舞いました。

桜は散る時が一番美しいといわれます。先生の訃報に接した日、4月15日島田川河畔の桜が美しく風に舞っておりました。

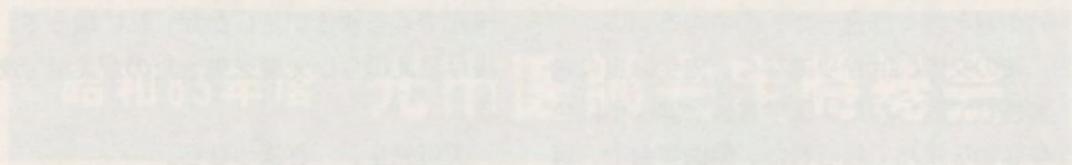
散る花を眺め、ふと戦国武将「蒲生氏郷」の辞世の句が脳裏をかすめます。

限りあれば

吹かねど花は散るものを

心短き春の山風

吉村



昭和63年5月21日

＝ 協 賛 集 録 ＝ リエン

Faint vertical text on the left side of the page, likely a list of names or organizations.

Faint vertical text on the right side of the page, likely a list of names or organizations.

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| 発行所 | 光市医師会<br>TEL 0833 72-2234 |
| 発行者 | 竹中昭二                      |
| 編集者 | 会報編集委員会                   |
| 印刷所 | 光市御崎町<br>中村印刷株式会社         |